

平成30年度 第4回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

平成31年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものです。

3 調査期間
平成31年2月14日（木）から2月28日（木）まで

4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象
平成30年度希望郷いわてモニター 262名

6 回答者数
214名

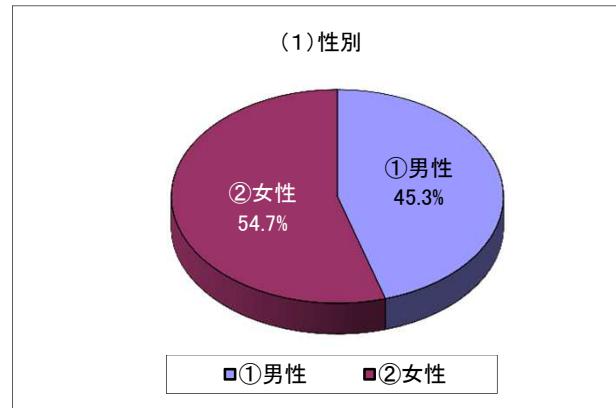
7 回答率
81.7%

Ⅱ アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

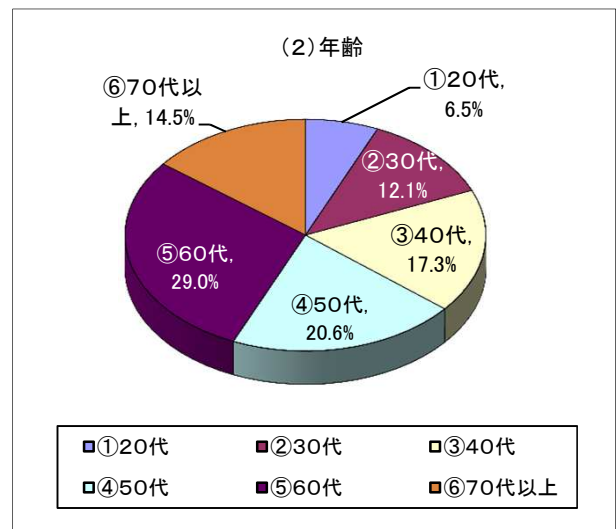
(1) 性別

①男性	97
②女性	117
計	214



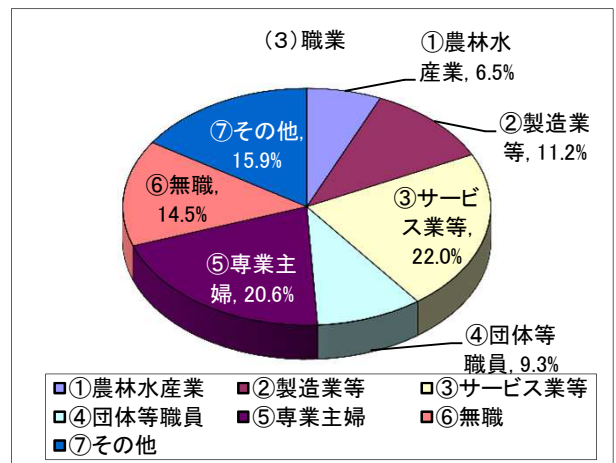
(2) 年齢

	合計	男性	女性
①20代	14	5	9
②30代	26	7	19
③40代	37	16	21
④50代	44	17	27
⑤60代	62	37	25
⑥70代以上	31	15	16
計	214	97	117



(3) 職業

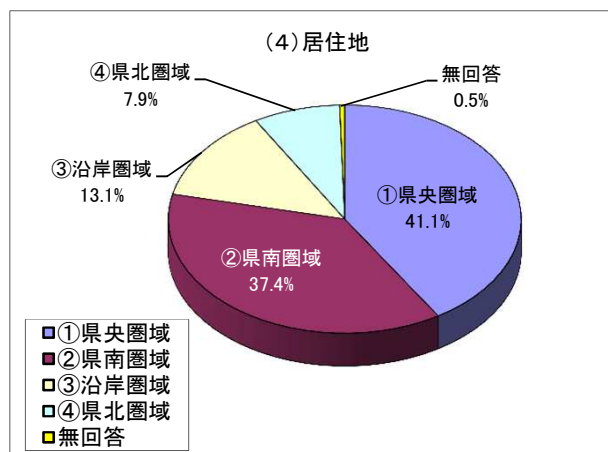
	合計	男性	女性
①農林水産業	14	11	3
②製造業等	24	20	4
③サービス業等	47	19	28
④団体等職員	20	11	9
⑤専業主婦(主夫)	44	1	43
⑥無職	31	24	7
⑦その他	34	11	23
計	214	97	117



※「その他」の内訳: アルバイト、パート、自営業、学生等

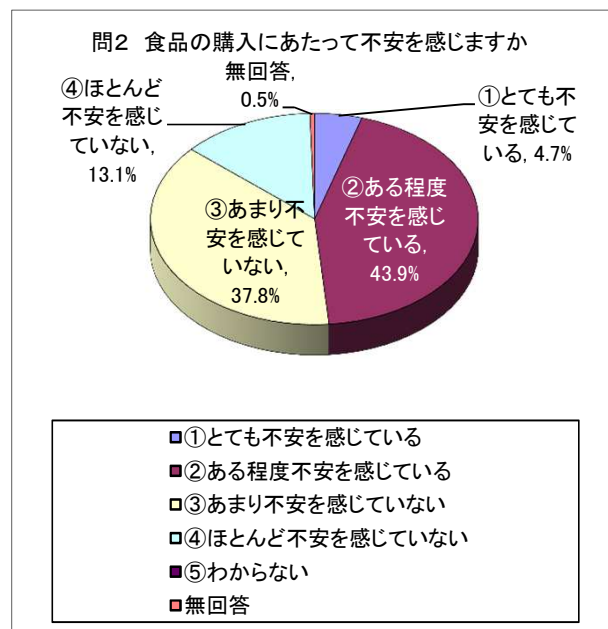
(4) 居住地

① 県央圏域	88
② 県南圏域	80
③ 沿岸圏域	28
④ 県北圏域	17
無回答	1
計	214



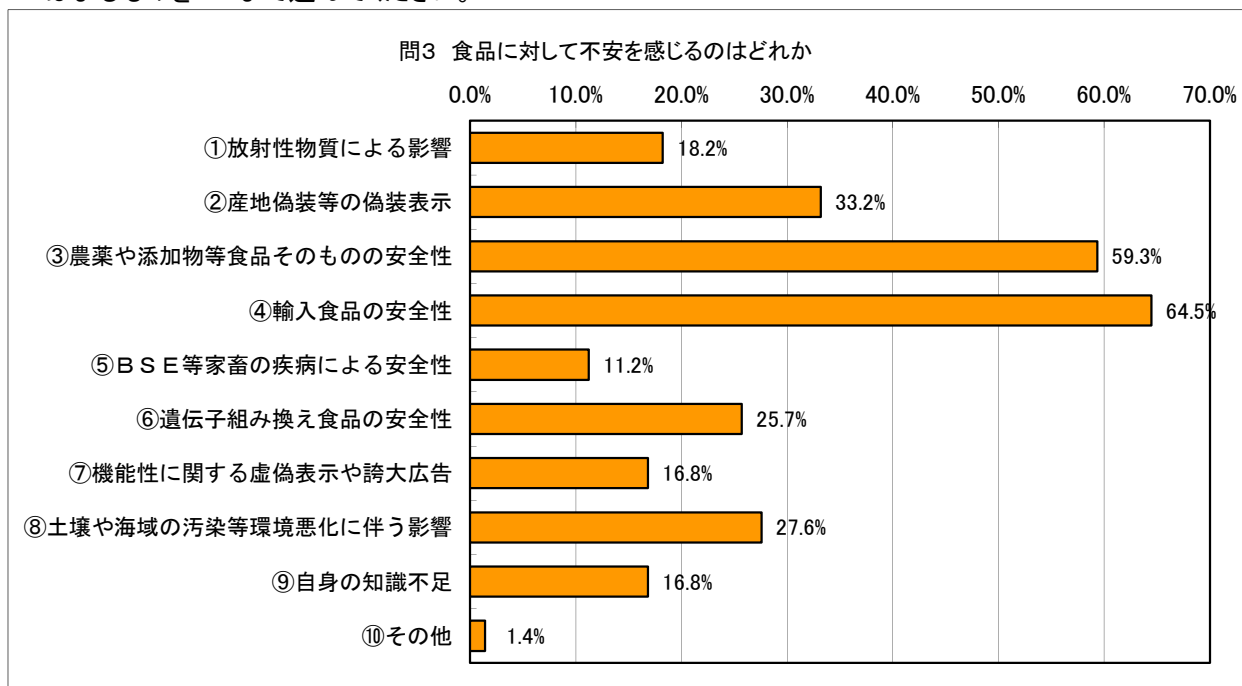
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

① とても不安を感じている	10
② ある程度不安を感じている	94
③ あまり不安を感じていない	81
④ ほとんど不安を感じていない	28
⑤ わからない	0
⑥ 無回答	1
計	214



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は48.6%であり、不安を感じない人(50.9%)を下回っている。また、前回(平成30年1月調査。以下同じ。)の52.5%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



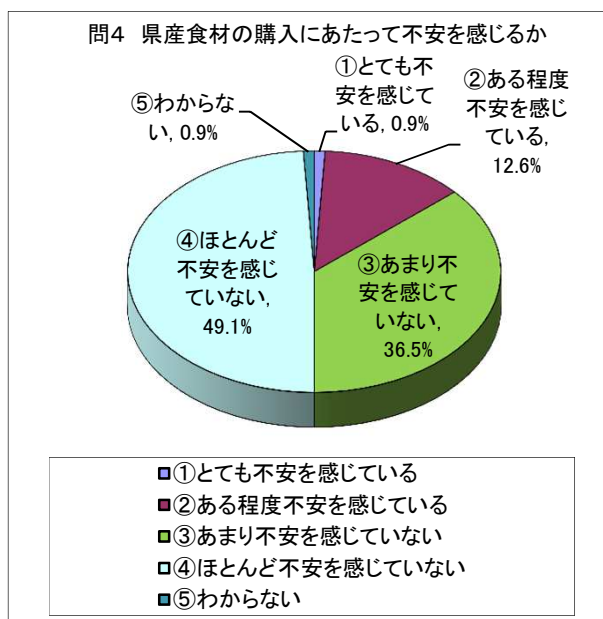
※「その他」の主なもの:「遺伝子組換えでない」と表示されている食品の多さ・信憑性、中国産食品

不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「④輸入食品の安全性(64.5%、前回71.0%)」が最も多く、次いで「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(59.3%、前回55.3%)」、「②産地偽装等の偽装表示(33.2%、前回44.7%)」の順に多かった。

なお、「①放射性物質による影響」は18.2%と、前回(16.6%)よりも増加している。

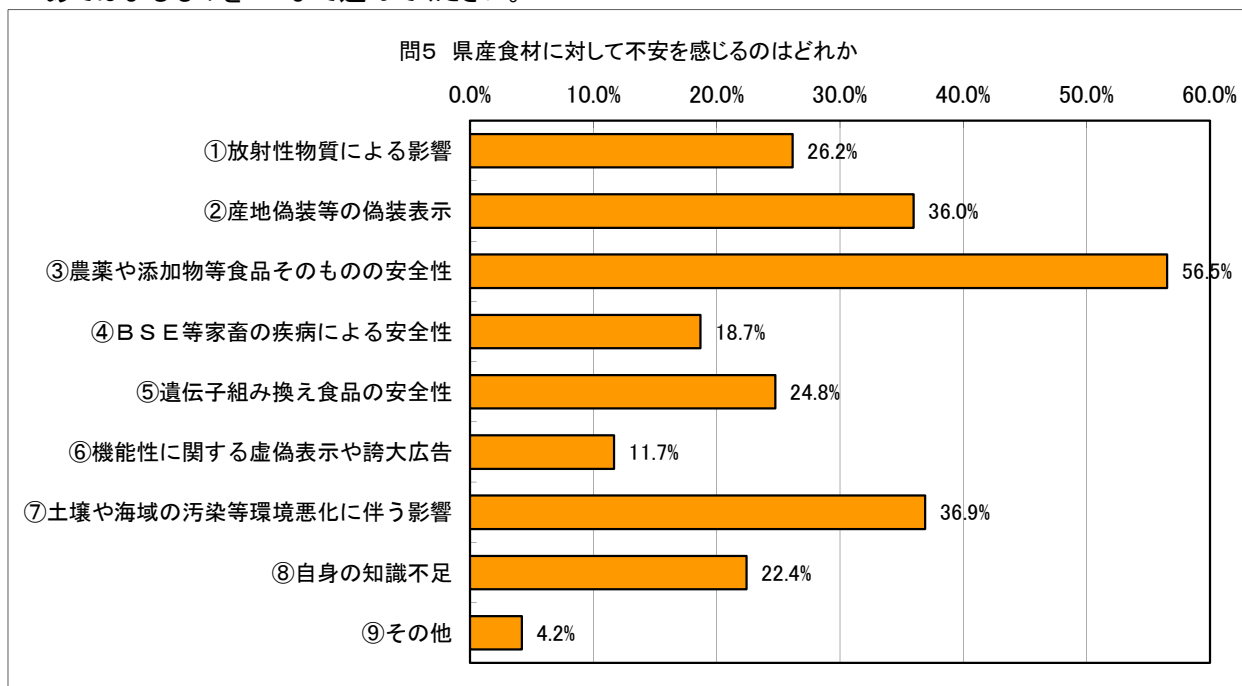
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	2
②ある程度不安を感じている	27
③あまり不安を感じていない	78
④ほとんど不安を感じていない	105
⑤わからない	2
計	214



県産食材の購入にあたって不安を感じている人は13.5%(前回12.9%)となっており、不安を感じない人の85.6%(前回86.2%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

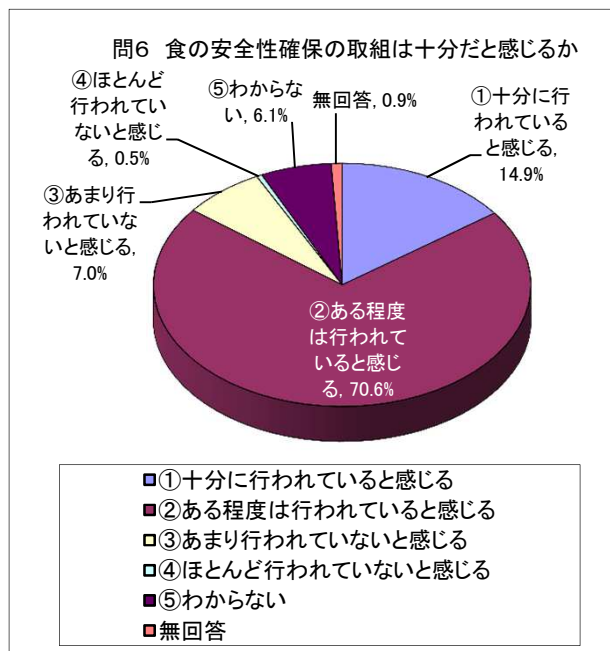


※「その他」の主なもの:野菜の農薬等使用、畑・ハウス・家畜舎など周辺も含む生産過程の衛生環境、加工食品の成分表示の有無、輸入食品の安全性、不安を感じていない 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(56.5%、前回56.7%)」が最も多く、次いで「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(36.9%、前回37.8%)」、「②産地偽装等の偽装表示(36.0%、前回35.5%)」の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

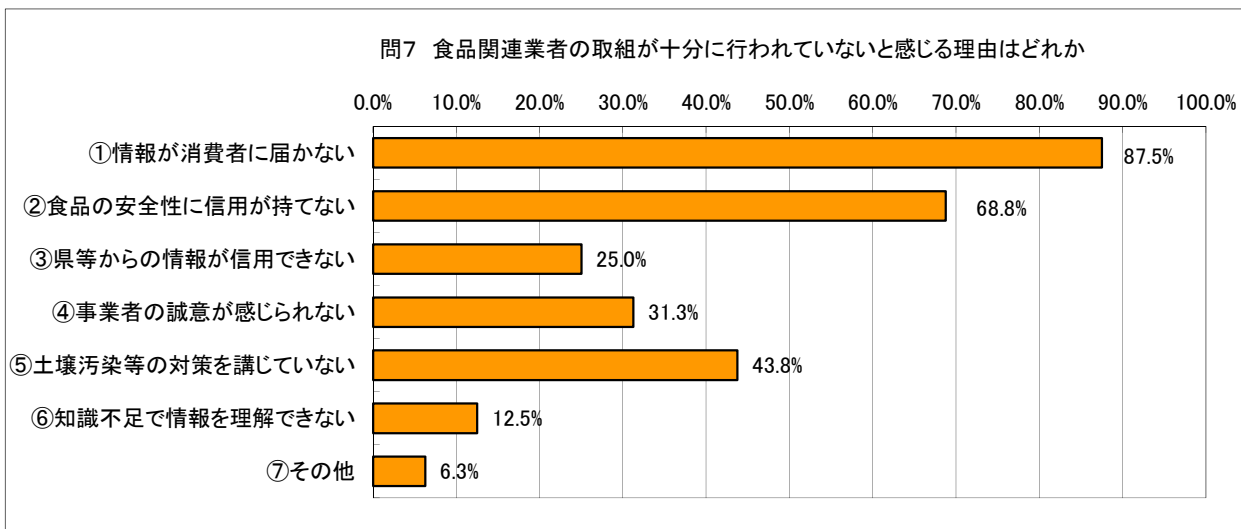
①十分に行われていると感じる	32
②ある程度は行われていると感じる	151
③あまり行われていないと感じる	15
④ほとんど行われていないと感じる	1
⑤わからない	13
無回答	2
計	214



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、85.5%(前回80.7%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている。

問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きます。

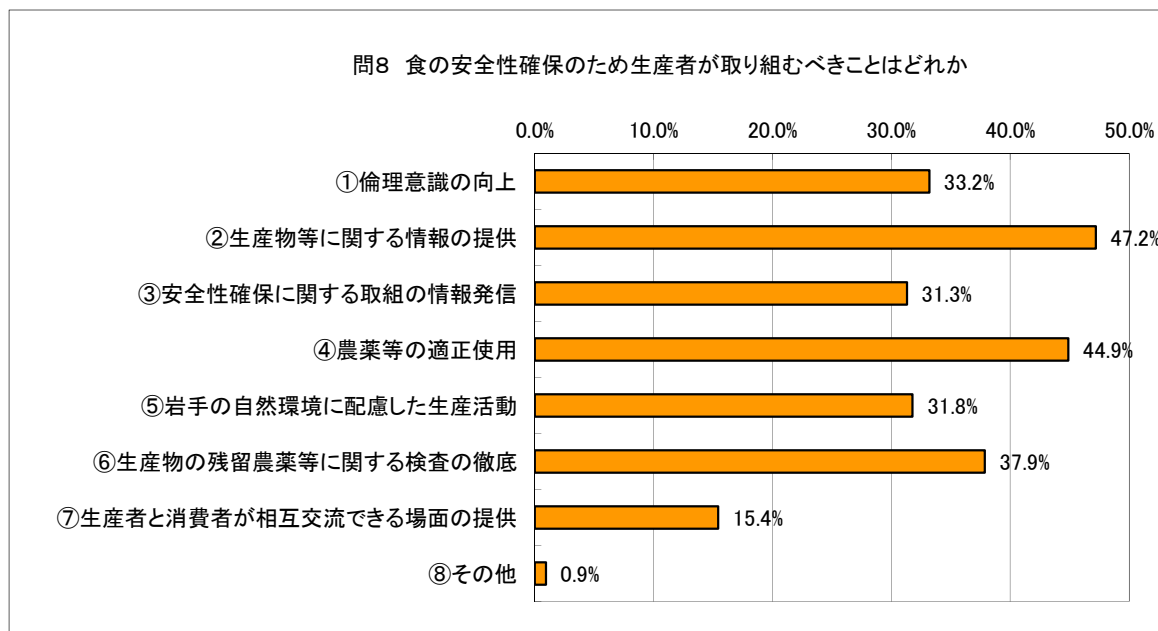
あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：事業者を適切に管理・指導しているのか疑問を感じる

安全性確保の取組が十分ではない理由は、「①情報が消費者に届かない(87.5%、前回84.2%)」が最も多く、次いで、「②食品の安全性に信用が持てない(68.8%、前回89.5%)」、「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(43.8%、前回36.8%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



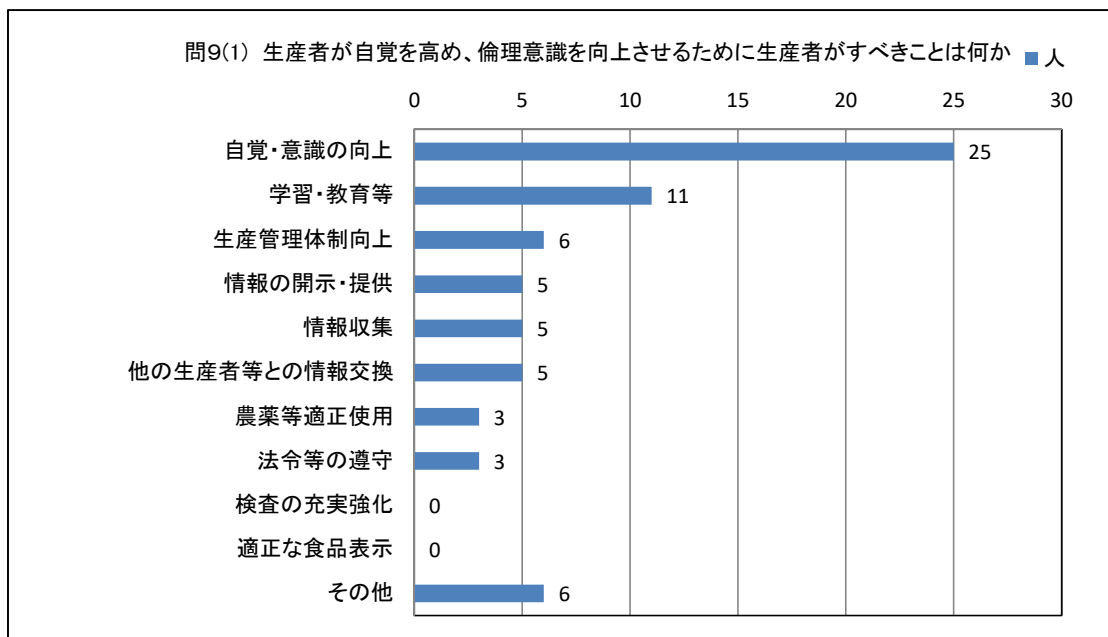
※「その他」の主なもの：消費者に分かりやすい食品製造過程(の公表)

県民が求める生産者の取組は、「②生産物等に関する情報の提供(47.2%、前回41.5%)」が最も多く、次いで「④農薬等の適正使用(44.9%、前回47.0%)」、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(37.9%、前回36.4%)」の順に多かった。

問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

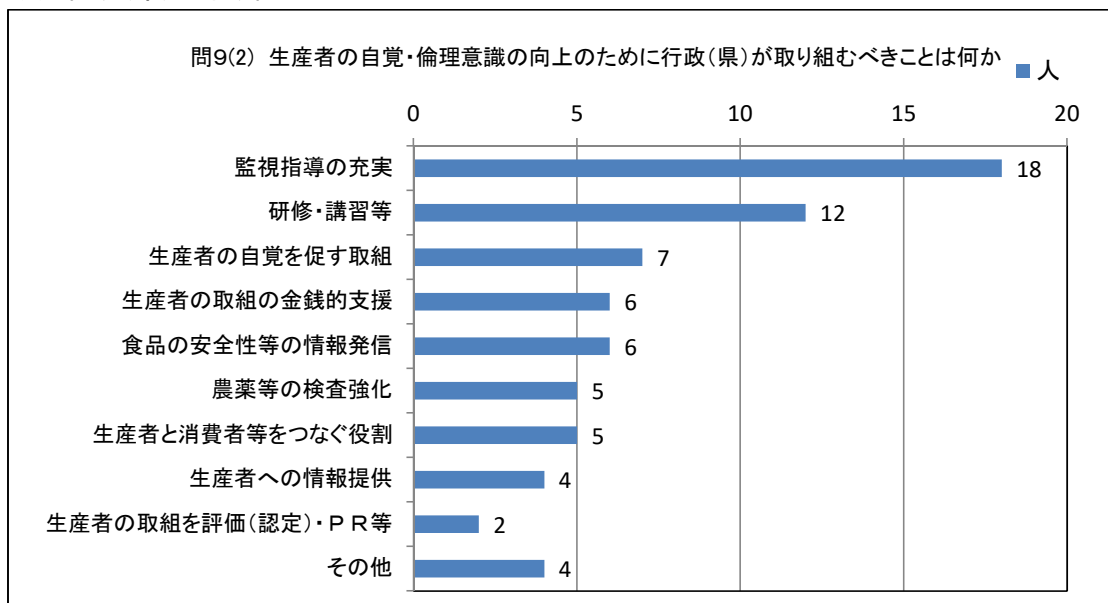
あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



※「その他」の主なもの: 食材の活用法や新しいレシピの開発、生産した物を自ら食べて確認する、安全な商品の提供が利益の増大につながることを認識 等

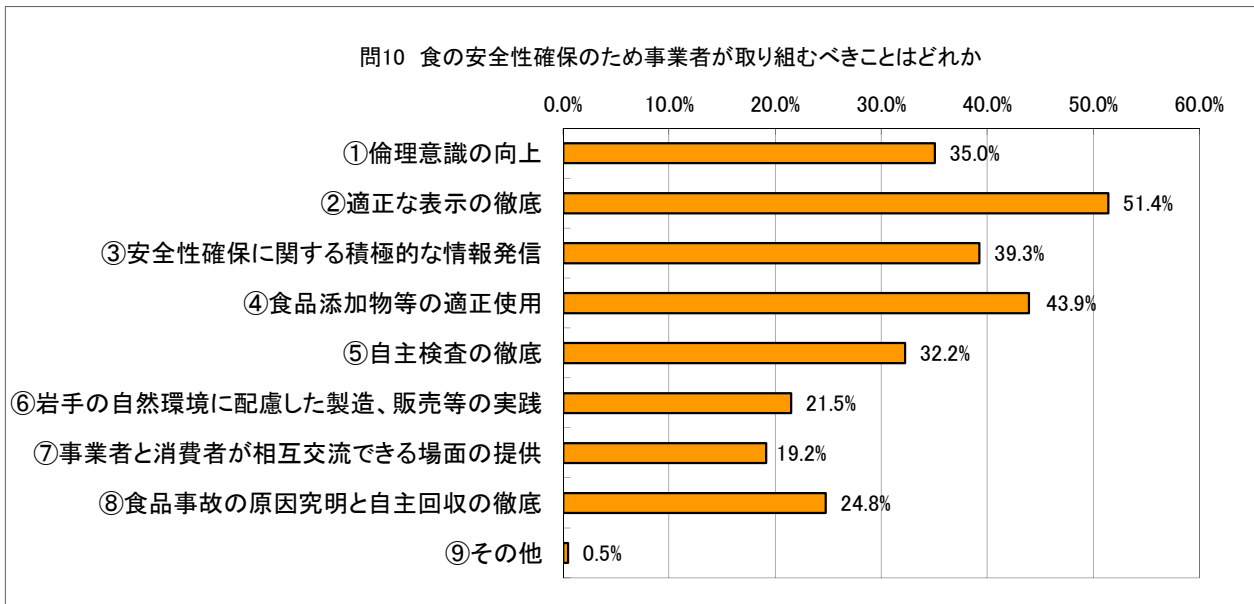
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 県独自の制度創設、生産者の生きがいにつながる流通経路の確保、規定事項に従った行動、食の安全性を考えてくれればそれで良い

生産者の倫理意識の向上が必要と回答した方(問8①選択者71名)が考える対応策を分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関するものが最も多く(25人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関するもの(18人)、研修・講習等に関するもの(12人)が多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



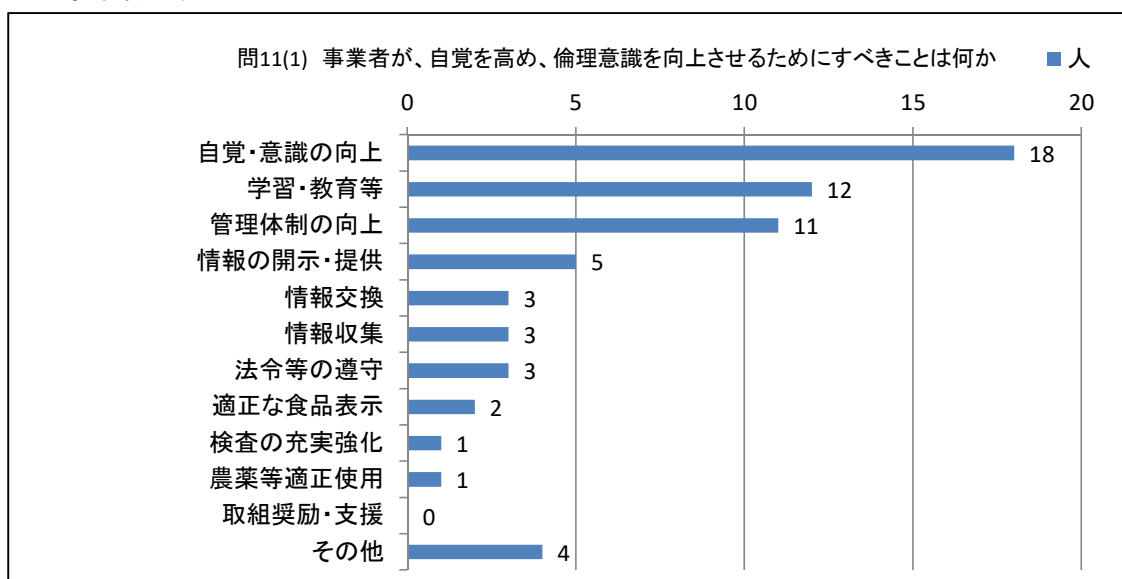
※「その他」の主なもの：食品の安全管理

県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底（51.4%、前回56.7%）」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用（43.9%、前回41.0%）」、「③安全性確保に関する積極的な情報発信（39.3%、前回35.9%）」、「①倫理意識の向上（35.0%、前回40.1%）」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

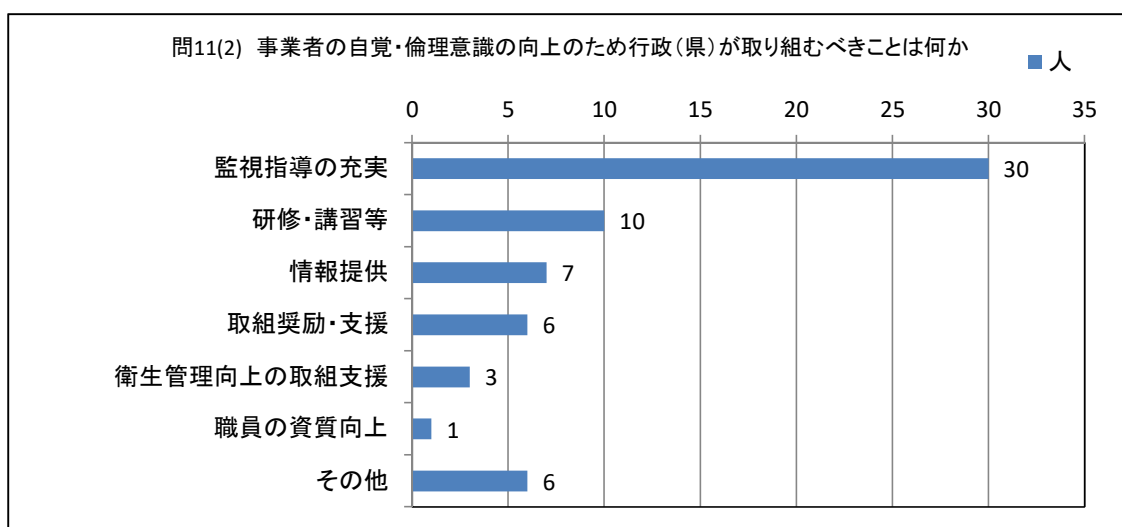
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの: 価格の安定化、ブランド化の推進、毎日の取組を大切にす 等

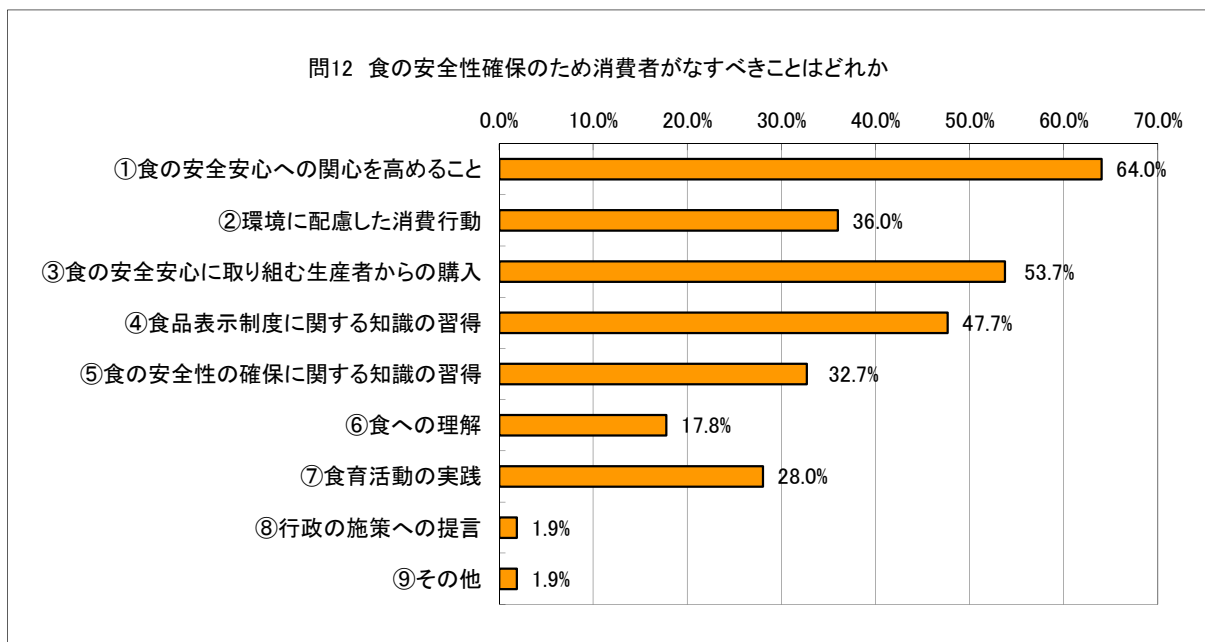
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 県独自の制度創設、生産者へのヒアリングや対話、指摘事項の迅速な処理、賞味期限と消費期限の明示を徹底させる、事業者情報の透明性確保、事業者としての道徳を考えさせる

事業者の倫理意識の向上が必要と回答した方(問10①選択者75名)が考える対応策を分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(18人)、学習・教育等に関すること(12人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(30人)が多かった。

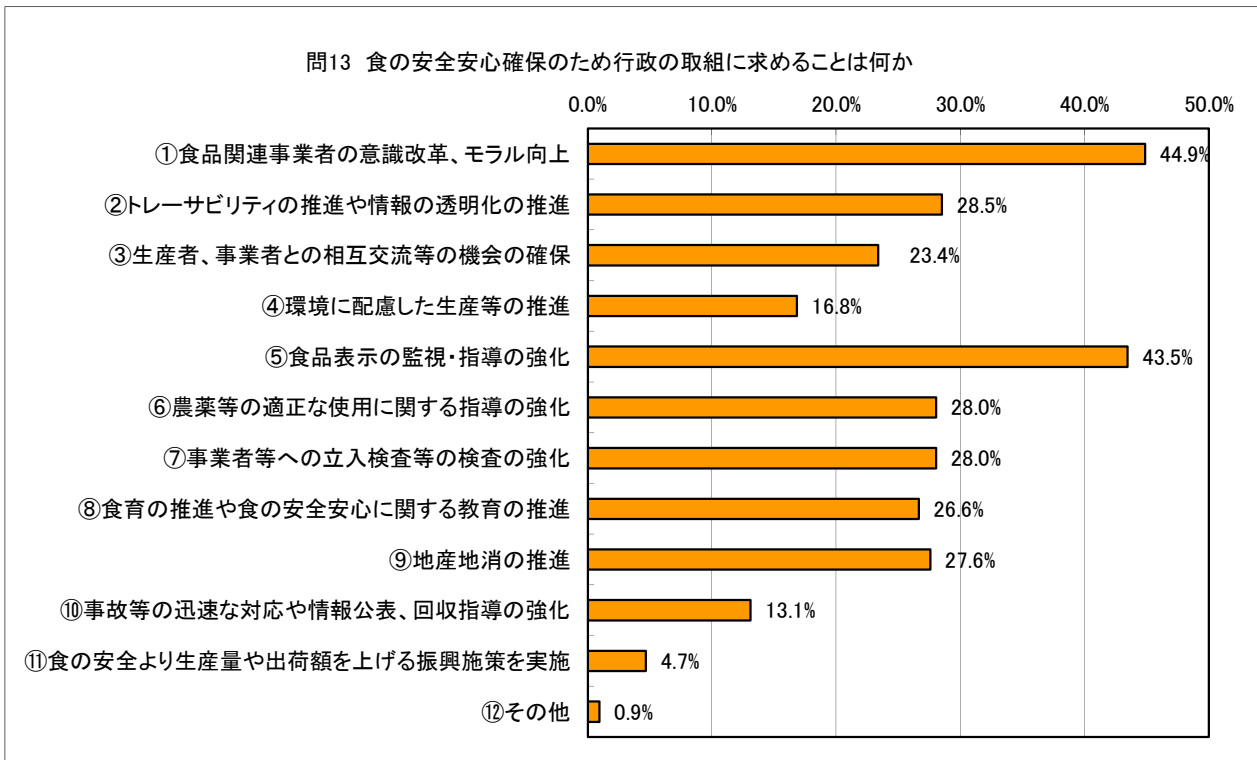
問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：食品と健康の関連性の知識を得ること、中国産食品の監視、①～⑧の項目すべて

消費者がなすべき取組としては、6割程度(64.0%、前回62.2%)の人が「①食の安全安心への関心を高めること」を挙げており、次いで「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(53.7%、前回49.3%)」、「④食品表示制度に関する知識の習得(47.7%、前回44.2%)」の順に多かった。

問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：中国産食品の監視、①～⑪の項目すべて

行政の取組に求めることは、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(44.9%、前回40.1%)」が最も多く、次いで、「⑤食品表示の監視・指導の強化(43.5%、前回44.2%)」、「②トレーサビリティの推進や情報の透明化の推進(28.5%、前回33.6%)」の順に多かった。

問14 食の安全安心について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	食品を購入するときに輸入物はなるべく買わないようにしている。食品添加物がなるべく入っていないものを買う。食事をできる限り手作りしている。
2	国内品、県産品への不安は少ないが 大手スーパーへ行くと平然と輸入品が並んでいる。安全検査等が行われていると思うが不安が大きい。
3	岩手は何でも美味しくて素晴らしい。
4	コンビニのお弁当は、身体にどれくらい影響があるのか分からない。
5	生産者や工場等において、より分かりやすい表示が大事。
6	メディア(テレビ・ラジオ・新聞等)の報道内容を通して、食の安全安心の知識を習得している。
7	四季の野菜も大事だが、冬期用に冷凍食品も国産品を使用したい。過剰流通で捨てる品があれば活用し、海外食品に頼らない取組が必要だと思う。
8	我が家には8才と5才の息子がいるが、子どもたちの体をつくっていく源になる食品は、安全安心が第一だと思う。以前何かの機会に食品添加物の勉強会に参加して、恐ろしさを知り、安心して買える食材が何よりだと思う。
9	産地を確認するようにしている。
10	岩手の食の安全は、県外にアピールできるものだと思う、生活している。
11	岩手県は食材そのものが美味しいが、安全性の監視・指導は続けてほしい。
12	最近は何気なく食していたが、孫の誕生により再び食に関心が向くようになった。
13	表示を信じて購入するので、安全安心の確保を希望する。
14	大量消費を期待した大量生産があり、廃棄することが多い。加工に適した生産物の開発をすることで販路を広げる。適切な生産であれば余ることはなく、また、貯蔵などの過度な資本の用意が必要でなくなる。
15	地産地消の推進。国内産を食すること。
16	国産と中国産の値段の違いがあり過ぎる。年金生活では、どちらを買うか迷う。しかし、国産だからといって100%信用できるか、不安を感じる。
17	商品を購入するとき(特に加工品)については表示を見ている。消費者でも分かりやすい表記だったら良いと思う。
18	加工食品の成分及び添加物(着色料、保存料等)の数多い列記を見ると購入を控えてしまう。体内に添加物が蓄積していると思うとぞっとする。
19	行政は、誠実に生産活動をしている方々に対する支援を行うべき。
20	コンビニへの依存度が高まっている中で、コンビニも地産品を積極的に売ってほしい。
21	産直に行けば、地産の物はあるが、スーパーなどでは、いろいろな物の外国産が多いと感じる。
22	情報が多く、消費者も過敏になりすぎていると感じるが、そうした流れに対応するため、生産者側でも適切な取組と情報発信が必要だと思う。
23	安全について騒ぎすぎている。安く、おいしく、新鮮に。
24	輸入食品の安全性が心配である。
25	外国産の野菜(加工食品含む)は、安全性がよく分からないので不安がある。値段が高めでも、国内産の物を購入している。(魚は、外国産でもあまり気にならない。)
26	輸入食品の安全性を確保してほしい。

27	最近特に食品の質に関心を持ち始め、本やネットで調べるほど、食品添加物の怖さを感じている。
28	売れずに少し傷んだ食材を値引きして売っているのを見かけることがある。生産者が新鮮な物を消費者に食べてほしいと考え衛生管理に十分に配慮しても、販売者側の意識が低ければ、消費者の不安につながると思う。
29	食べるということに興味を示さない人が増えている。時間短縮で美味しいレシピを紹介したり、昔の大家族のように皿数は少なくても美味しく感じる経験ができる場所やイベントがあってほしい。食に関することは幸せなのだということを理解する機会がほしい。
30	原材料が遺伝子組み換えかどうか気になる。
31	野菜はできるだけ地元の農家のものを買うなど、新鮮なものを購入するようにしている。肉は、最近外国産のものが安く手に入るが、国産のものを買うようにしている。外国産は、どんな人が飼育したか等の情報がないので、購入する場合はやはり少し怖い。
32	海外のものは不安があるのでできるだけ国内のもの、また、生産者の顔が見える産直のものなどを利用している。
33	食品そのものの安全性確保については、生産者側も行政側も厳しく行うようになってきているが、最近テレビでもよく取り上げられていることもあり、商品が出来上がるまでの工程が分からないので気になる。
34	購入に当たっては常に原材料の産地や製造者の国籍などを確認するようにしているが、記載されていないものがまだ多く流通していることに不安を感じる。
35	家庭、学校、地域での食の安全安心運動を起こすことが、一人ひとりの食生活の財産になると思う。例えば、西和賀町の農業まつりでは学校・保育所の標語コンクール等が実施されるが、一人ひとりの財産、宝物と思って、いつも見ている。
36	見た目は安全そうに見えても、食べ物の生産や加工の過程で、表示等には見えない危険(薬品や土壌汚染)が含まれて店頭と並んでいるかもしれないという危機感がある。
37	生産者及び事業者(特に第一次産業関係者)の食に対する取組等を行政が情報収集した上で、一般消費者へ向けた情報の発信を積極的に行ってほしい。
38	化学合成農薬や肥料を使用せず、無農薬の野菜や果実を心がけたい。
39	口に食べ物を入れたとき、違和感がある場合は吐き出すように教えることも大切だと思う。
40	震災後、若いお母さん達は自宅で作っている野菜をあまり食べないと聞いたことがある。現在は、地元で野菜作りをして近所で交換して食べているが、若い人たちにも安全性を分かってほしい。
41	放射性物質の更なる情報開示により、県産食材の安全性を発信してほしい。
42	中国や韓国の製品は信用できないので買わない。
43	輸入食品の安全性の検査が本当にできているか心配である。
44	近年、生産者、加工業者、販売事業者等により徹底した衛生管理がなされていると思う。「初心忘れず」をモットーに、安全安心な商品の提供をお願いしたい。
45	食の安全からは反していることではあるが、消費期限・賞味期限切れの商品にも食しても大丈夫なものが多くあり、対策が必要だと思う。
46	無農薬が良いとは言いが、国産のものについては安全性はほとんど変わらないと思う。
47	日常食の安全がうたわれているが、厳密な意味で徹底されている安全基準はどの程度のものであるのか、消費者にも分かるといい。
48	県産、国産であれば大丈夫だと信じているところはある。逆に外国産のものについては、ニュース等で環境汚染の問題について知っているため、購入したくない。
49	できるだけ地産地消、国内産品の選択をしたいと思っはいるが、中国産等の食品が多いと感じる。
50	輸入品検査、表示強化。
51	県南地域(一関市等)の食品の放射性物質による影響が現在どのくらいあるのか、安全性に少し不安を感じる。
52	りんごはまるごと食べた方が良いと言われているが、気になるのは農薬の影響。(テレビでは洗うだけで心配ないと言っているが心配。)

53	安全な食は、低農薬・無農薬や低化学肥料等によって作られるものだと思う。手間暇がかかるが、多少値段が高くても安全なものを選びたい。(毎日食べる玄米は特に。)近頃は、一日三食ではなく二食や一食が良いとか、満腹はだめで少食が良いとか、ずいぶん食に関する考え方が変化してきているが、自分で試してみ、自分に合ったものを探している。
54	野菜等はスーパーの産直コーナー等、日頃から地元生産者のものを買うようにしているので、不安はあまり感じない。加工品に関して、いまだに人工着色料を使うメーカー等は避けている。(アレルギーの心配のため。)
55	スーパーに行っても、産直コーナーで何となく岩手県産の食品を購入してはいるが、実際のところ農薬の使用方法等までは分からないので、もう少し情報を記載してほしい。
56	コンビニにも地産地消のものが置いてあると良いと思う。産直だけでなく、地元のスーパーやコンビニでも岩手の安全なものが容易に手に入ると良いなと思う。作った人の顔を見ることができ、生産者の声が届けられる、また、消費者から生産者へも感想が届けられるような、双方向のやりとりができる場の工夫を望む。
57	最近SNSに投稿されるような悪ふざけの動画について、食べ物を扱う側のモラル低下や指導不足(これは小さい頃からの躰にもよるのかもしれないが)を感じ、調理済みの食材を食べることへの抵抗があるため、県産素材をなるべく選び購入して消費することに努めている。アンケートの設問にあったが、安全・安心なことのアナウンスについて、生産者の発信の程度にばらつきがあり、小さな規模の生産者の情報が行政等の力でより公になることを希望する。農薬のような添加物についても、そのほとんどが体内に蓄積されていくものだと聞いている。放射能もそうだが、目に見えないものに対する規制も県で徹底していただきたい。
58	産地や賞味期限はよく見ている。また、スーパー等で売られているものでも、傷みがないか見るようにはしている。
59	生産者側の取組について、話を聞くなどしてもっと理解を深めたい。
60	ネット等で、科学的根拠のない誤った情報が流れることがある。消費者に正しい知識がない場合、ついその情報に流されてしまうことがあるので、今後気をつけたいと思う。
61	即席麺の内容表示が細か過ぎて、消費者を混乱させる。
62	プラスチックゴミ等の環境汚染が食べ物を通して人体に与える影響に不安がある。また、手軽に食べ物が手に入る反面、販売店(コンビニ等)の食べ物に携わる人のモラルの低下に不安がある。
63	農産物の農薬や、土壌の安全、加工品の添加物の安全性が気になる。
64	食品について、中国産が多いように感じ、買いたくない。また、他県の知らない場所の野菜や食品等も買いたくないような気がする。
65	インターネットなどで、あからさまに農薬の危険性を訴えて、自社の無農薬野菜の販売につなげようとするものを見かける。何も知らない消費者は、その情報だけを真に受けて、「農薬＝悪」であるというイメージを植えつけられる可能性がある。先日、農薬管理アドバイザーの講習を受けたが、農薬の使用基準や、農薬は全ての病害虫を駆除することが目的ではなく、必要最低限の量を散布することが推奨されているということを知った。無農薬について否定はしないが、農薬を散布しなければ現在の収量は見込めないし、「国民の生命を守る」という観点から、最低限の農薬は必要であるという情報開示も必要であると思う。その点は中立的な立場である行政の役割だと思う。
66	「国産＝100%安心」、「輸入品＝選ばない」という構図があるが、それが間違っていたときは怖い。
67	外国産の肉や野菜の安全性、価格。
68	岩手県は、面積が広い反面、山間部も多く、気候や地域に適した独自の方法・工夫により、新鮮で美味しく、そして豊富で安く食材を提供いただけているので感謝している。農家や漁師の方々、加工業者の方々の懸命な努力によるものだと思うし、もちろん行政も一緒に取り組んでいると思う。
69	食品添加物と私たちの生活での関わり。店舗でのセルフサービスを利用した食べ物の扱いが悪い、マナーの悪い人や小さい子どもが気になる。

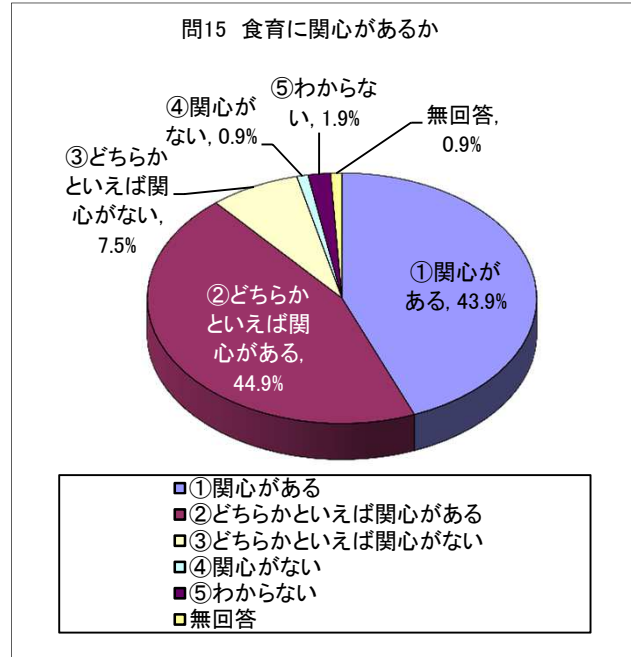
70	<p>学校で食育教育として給食を出しているが、食についての安全性を子どもたちに教育しているのを聞いたことがない。デザートやゼリーやプリンには食材の表示もないし、食品添加物を使っているのかも判断できない。一部のスーパーでは食品添加物についてしっかりと表示や説明があるが、全てのスーパーが同じように安全性の情報を提供するように指導しても良いのではないかと感じる。</p> <p>食品添加物を多く取るとキレやすいとか、アレルギーになるとか、発達障害に影響があるとかいろいろなことが言われる割に、食の安全性に県が力を入れているとは思えない。情報も少ないし、良いものを作っている人を支援する政策を行っているような話も聞かない。少し高くても安全で良いものを作っている、そしてそれを利益が出るように販売網にきちんと乗せられる県の具体的な方策がほしい。</p> <p>最近、低所得の家庭で、少しでも安いものを食べるのが第一で安全・安心が二の次になっている風潮も心配。そのような家庭では、保護者が子どもに朝ご飯を食べさせないことが多いと聞くが、学校ではその子にだけ特別に食べ物を食べさせるとひいきになるからと何も対応しないとも聞く。子どもたちは周りにいるすべての大人たちが育てるものとして、朝ご飯を食べさせてもらえない家庭には、せめて学校で何らかの対応ができないものか。(保護者に指導するのは当然だが、実際に食べられていないという状況をどうにかして変えてほしい。)</p> <p>子ども食堂についても、より食材を提供しやすいうように回収場所を増やす等して、行政も連携してほしい。廃棄食材(消費期限内)を利用する等、もったいないという気持ちと、子どもたちや困っている人に元気を与える思いやりの両方を兼ね備えた良いシステムを作ってほしい。</p>
71	<p>生産者や事業者が安全な食品を提供してほしいということが一番だが、購入する消費者側が安全なものを選ぶための知識や食への関心を持つことも大切なことだと感じる。</p>
72	<p>岩手の経済のため地産地消を心がけて県産品を率先して購入しているが、特に産直のものは新鮮な状態なので安心して調理できる。</p>
73	<p>輸入生鮮食品の安全に不安がある。例えば、鮭では国内産、ロシア産、チリ産で安全評価が全く違うにもかかわらず店頭で並んでいる。値段に差があるため、ゆとりのある人は高い安全なものを買って、収入の少ない人は不安でも安いものを買わざるを得ないのではないかと感じる。</p>
74	<p>原料、産地、内容量、添加物等の表示について、消費者は関連知識を習得すれば理解や判断はできる。しかし、誤表示(意図的またはミス)があれば、もはや正しい判断はできない。そのため、法令に従った正しい表示をすることが、最低限の生産者の義務だと思う。また、減農薬・無農薬の農産物はどうしても高価格になるので、経済的な余裕のない人でも購入できる「普通」で、かつ安全な農産物を流通させてほしい。</p>
75	<p>子供たちが食べるものがどんどん増えるにつれて、食品について気にするようになった。岩手県で作られているものであれば大丈夫と思っている部分もあるが、だからと言って、県外産のものを買わないわけではなく、安いものを探してそれを購入することが当たり前になっている。知識不足もあるが、生活を維持するためにこだわりすぎることもできないため、どこまで気にしていかなければならないのか分からないのが正直な感想である。</p>
76	<p>マスク、帽子、手袋の着用。</p>
77	<p>地産地消を推進していきたい。年齢が60代となり、安全な地元のもの食べることにしている。</p>
78	<p>インスタント食品の便利さについて流されがちな生活だが、体調が悪いときには、自然のものに嗜好が向く。また、地元のもの普段から目にしているものでもあるので、心配を感じない。ものの良さより、生産者の顔で(人柄で)購入することもある。「形が悪くても美味しい」とか「こうすればもっと美味しくなる」等の情報を、普段から得る場が増えれば安心性も高まっていくと感じる。</p>
79	<p>生産者や消費者だけでなく、販売者に対する啓蒙を行う必要があると感じる。</p>
80	<p>食品添加物に対する知識があまりなく、情報もあまり得られていないので、本当に安全・安心なものが使われているのか、不安なときがある。</p>
81	<p>産直をよく利用しているが、安全性についての情報提供がないため、不安になることがある。季節ごとに、親子で農業体験ができる機会があれば、もっと食に関して興味を持つと思う。また、個人に畑を貸し出す制度があればいいと思う。</p>
82	<p>消費者心理として、値段が安くて安全なものを、という意識があると思うが、現状は、海外の品質管理の不明なものを購入しなければならない。これも自己責任と言われるのだろうか。</p>
83	<p>添加物が多い食品を選ぶこと、無添加のものを選ぶことなど、消費者は常に買うという選択行為に責任を持っている。よって、表示の虚偽だけはやめてほしいと常々思う。</p>
84	<p>化学物質過敏症がある。それに適した食品を購入しようと思うと、どうしても割高になるため、体に負担のないものももっと手ごろな価格になればと思う。アレルギーを持つ子どもたちも同じ問題を抱えており、どうにかできないかと考えている。</p>
85	<p>「地産地消」とうたってはいるが、「地産」のもの自体に偽りの部分がある場合、責任の所在は不明となる。「モラル」は人間として当然のものであると思うので、無条件に信用はしたいが、崩れていることも現実にある。せめて「県内」でだけは信じられるものをつくられ、提供され、購入できる体制を確立してほしい。</p>

86	YouTubeで食べ物を粗末に扱う動画が流れていて、とても残念である。
87	PL法に違反するものが販売されている。ホッチキスの針でパックの縁を留めているものがときどき見受けられる。指導やチラシでの周知を徹底してほしい。
88	賞味期限の表示があるかどうかを必ず注意している。
89	子どもに安全なものを食べさせたくて近場の産直をよく利用している。産地偽装や異物混入などがあり、「輸入品より国産が絶対安全・安心」というわけでもないのに、自分で食品のリスクや情報を集めることが重要だと思う。
90	岩手県産の食材を手取るようにしているため安全性に不安はない。
91	スーパーにある地産産コーナーを利用しているので、ぜひ頑張ってもらいたい。
92	自ら育てることができるものは育て、それ以外のは県産のものを買うようにしている。冷蔵庫での食品の保管についても気をつけて消費していきたい。
93	産地の表示が不明瞭なものを買わない。近くで採れたものを優先している。(地元の奥州市→岩手→東北→日本)
94	よく産直等も利用するが、使用農薬が指定されている薬か、残留農薬等の出荷前の検査等が徹底されているかが気になる。
95	輸入食品の販売にあたっては、販売前において食品の残留農薬や添加物使用等の検査を徹底し、安全性の確保に取り組むべき。
96	食品偽装問題について関心がある。輸入品に関して、はたして安全安心に食べられるのか不安。
97	食品表示を見るにつけ、添加物が多く使用されているのがとても気になっている。添加物について学ぶ機会は、年齢が上がるにつれ少なくなるため、添加物の知識を再確認する意味でも、市町村広報の紙面上で学習できるような取組を指導してほしい。家族で学んだり、発見したり、意見の交換ができると、食に対する意識が高まるのではないかなと思う。
98	消費者は表示を信じるしかない。安全性についてチェックされたものには何か印がほしい。
99	JA等の経済団体を通じた販売では生産者や事業者のトレーサビリティが徹底されてはいると思うが、道の駅や産直等の生産者が直接販売できる施設におけるトレーサビリティ情報に不安を感じる。
100	海外の安全基準と比べて、日本の添加物等の基準が緩く、食の安全が保障されない日本の現状に危機感を抱いている。
101	価格面で輸入食品を選ぶことがあるが、安全性が気になる。ブームになっているサバの水煮缶も価格が高騰し、外国産が多くなっている現状を危惧している。
102	食中毒予防等、さまざまな目的で食品包装に多量のプラスチック類や消毒剤が使用され、安易に廃棄されている。しかし近年、マイクロプラスチックの悪影響が報道されているように、見た目や衛生を追求するために人体・生命への負担が蓄積され続けているようで怖いと思う。
103	販売食品の購入に際して、使用期限や消費期限を確認している。
104	中国産食品の問題は根が深く、県行政の取組に期待。
105	地産地消することで県民全体が幸せになれると思う。生産者にとっては本当に良いことだと思う。
106	表示されている内容が正確なのか、いつも不安を感じている。
107	特に不安はないが、放射線物質や農薬等について、食品から人体への影響がどれくらいあるのか数字を出してほしい。
108	今までは、安い食品(大量生産商品はラベルは特に気にしなかった)をよく買っていたが、最近はマルシェやFacebookなどを通じて、地産地消の食品をよく買うようにしている。Facebook等で生産者さんがとても身近に感じるせいか、食に対する安全性にあまり不安を感じていない。もっと生産者と交流できる場所があれば、皆が食に対して興味を持ち安心して食べることができる環境になると思う。

109	<p>転勤生活で、岩手産のものがあるときは喜んで購入していた。空気も水もきれいで、生産者も実直で信用できるからである。首都圏で販売に関わっていたとき、消費者は商品の裏の成分表示を確認してから、納得してから購入していた。健康意識の高い人は増えている。東南アジアに住んでいたころ、「日本のものは放射性物質があるから食べない」と言われたとき、「東南アジア産の食品の方がいろいろ不安要素が多いのに」と思ったが、国レベルで対応しないと難しいと思った。</p>
110	<p>スーパーでは普段なるべく県産品を購入している。また、産直の方が地元産なので安全な気がしてよく利用している。</p>
111	<p>食品成分表示については、アレルギー物質も含め、かなり詳しく表示されているが、あまりにも情報量が多すぎて一番大切なものは何なのか見失いがちで、消化しきれていない人も多いと思う。また、糖質・脂質を減らすために代替で使われる物質が、長期的に人体へ蓄積することによる害を心配している。</p>
112	<p>生産者や事業者が虚偽をしない・させない監視体制をオープンにすることが必要。</p>
113	<p>臭い、色、包装の仕方、POP広告。</p>
114	<p>自分の健康を考え、買い過ぎ・作り過ぎ・食べ残しのないよう心がけている。良い食生活をする習慣を、友だちや皆さんと考えたり話し合ったりしている。</p>
115	<p>食の安全安心について、化学物質や毒物には神経質に向き合い、泥やほこりについては気にしないようにしたい。</p>
116	<p>輸入食品すべてに不安を感じる。</p>
117	<p>店頭に並んでいるものは安全安心、という信用のもとに購入しているが、何がどのように安全安心なのかについては思いが及ばない。県産品よりも値段の安いものを購入する方が多い。</p>
118	<p>スーパー等で消費期限が記載されていても、明らかに食べられそうもないものがあつたり、期限切れのものが販売されていることがたまにあるので、市や県でもしっかりと調査してほしい。</p>
119	<p>ノロウイルスや他の食中毒を引き起こすウイルスを、衛生面に気をつけながら寄せ付けないことが大事ではないか。</p>
120	<p>食品の表示の監視を厳しくしてほしい。</p>
121	<p>県や市町村には、食品に関する情報もちろんだが、もし食品の安全性に関する勉強会等があるのなら、もっとわんこ広報室等を使って積極的に情報提供をするようにして、できるだけ多くの人の耳に入るようにしていただけるとありがたい。</p>
122	<p>国内産については、注意するのは消費期限ぐらいだが、輸入品については特に安全性に注意している。中国産やアメリカ産のものは購入しないようにしている。</p>
123	<p>子どもたちには、安全安心なものを作ってあげたいので、なるべく地産のものを使っている。</p>
124	<p>高齢者で一人で生活しているので、日々、食に関して十分留意している。</p>
125	<p>どこまでが安全・安心なのか、表記されている情報(産地等)に間違いはないのか、ときどき信用できなくなるので自分でも勉強したいと思う。</p>
126	<p>遺伝子組み換え食品、食品添加物、残留農薬については、食べてすぐにはではなく数十年後に影響が出るのではないか。子供たちの成長に害がありそうで不安。</p>
127	<p>残留農薬等が心配なので、外国産(特に中国産)のものは購入しないようにしている。</p>
128	<p>「2人に1人がガンになる時代」などと巷では言われているので、食品選びには気をつかう。</p>
129	<p>ガン等が日本人に増えているので、食事には気をつかう。</p>
130	<p>農薬、放射性物質、工場等からの産業排水(汚染水)、遺伝子組み換え食品の問題で、食品選びに気をつかう。</p>
131	<p>今一番気になることは、食品ロスの問題。食べられない時代もあったのに、いつか「ばち」が当たるのではと思う。</p>

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

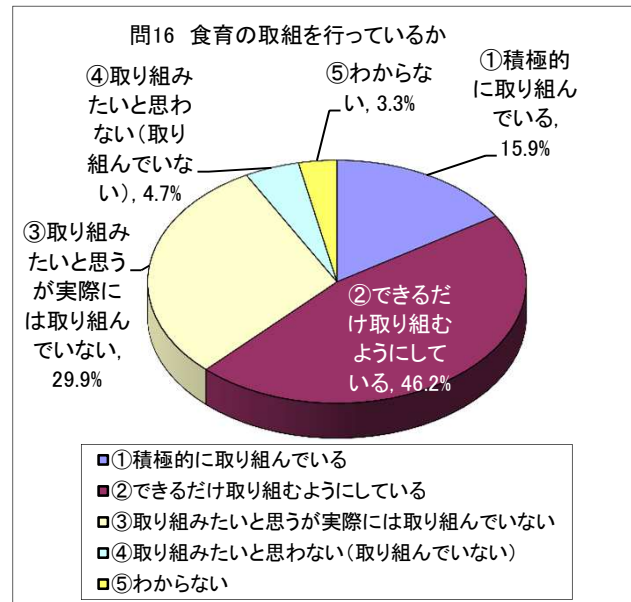
①関心がある	94
②どちらかといえば関心がある	96
③どちらかといえば関心がない	16
④関心がない	2
⑤わからない	4
無回答	2
計	214



食育に関心がある人は88.8%（前回88.0%）であり、ほとんどの人が食育に関心を持っていることが分かる結果となった。

問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

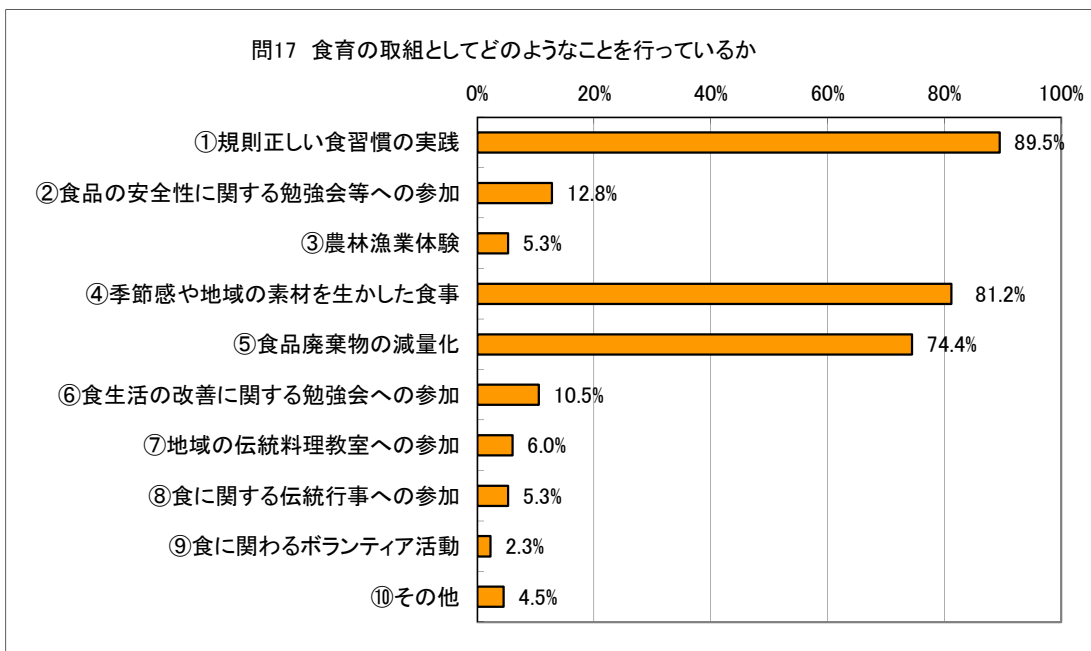
①積極的に取り組んでいる	34
②できるだけ取り組むようにしている	99
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	64
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	10
⑤わからない	7
計	214



食育の取組を行っている人の割合は62.1%（前回64.0%）である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が約3割(29.9%、前回27.2%)に上り、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。

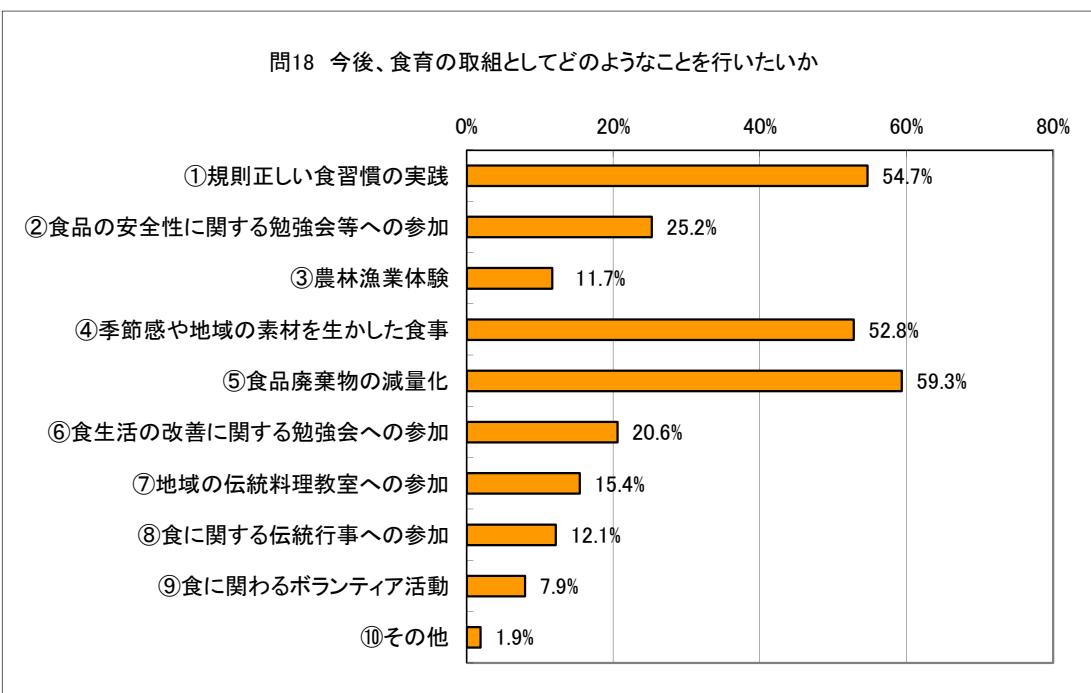
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 幼児教育への対応、原材料を確認し添加物をできるだけ避ける、自分の健康状態を改善するような食品を選んでいる、書籍・インターネット等による情報収集、添加物や遺伝子組み換えのない食材の提供、行事食を食べる

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(89.5%、前回81.3%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の食材を生かした食事(81.2%、前回69.1%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(74.4%、前回60.4%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

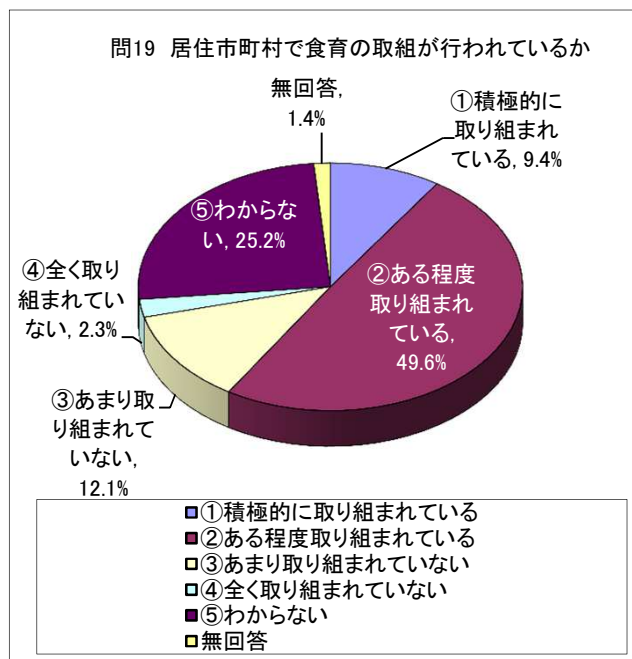


※「その他」の主なもの: 幼時期からの食育推進、子どもと食について会話する、旬のものを購入する、食と医学との関連性を研究する

今後、食育の取組として行いたいことは、「⑤食品廃棄物の減量化(59.3%、前回52.1%)」が最も多く、次いで「①規則正しい食習慣の実践(54.7%、前回56.2%)」、「④季節感や地域の素材を生かした食事(52.8%、前回55.8%)」の順に多かった。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

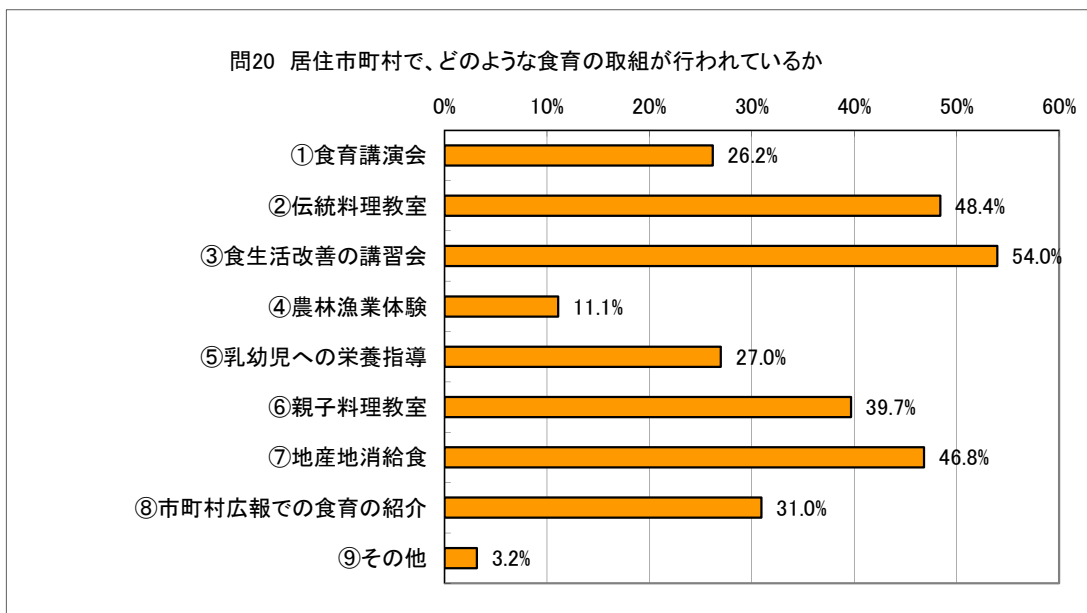
①積極的に取り組まれている	20
②ある程度取り組まれている	106
③あまり取り組まれていない	26
④全く取り組まれていない	5
⑤わからない	54
無回答	3
計	214



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は59.0%（前回60.9%）と前回より減少した。また、取組の有無が分からないという回答が25.2%（前回23.5%）と前回よりも増加している。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。

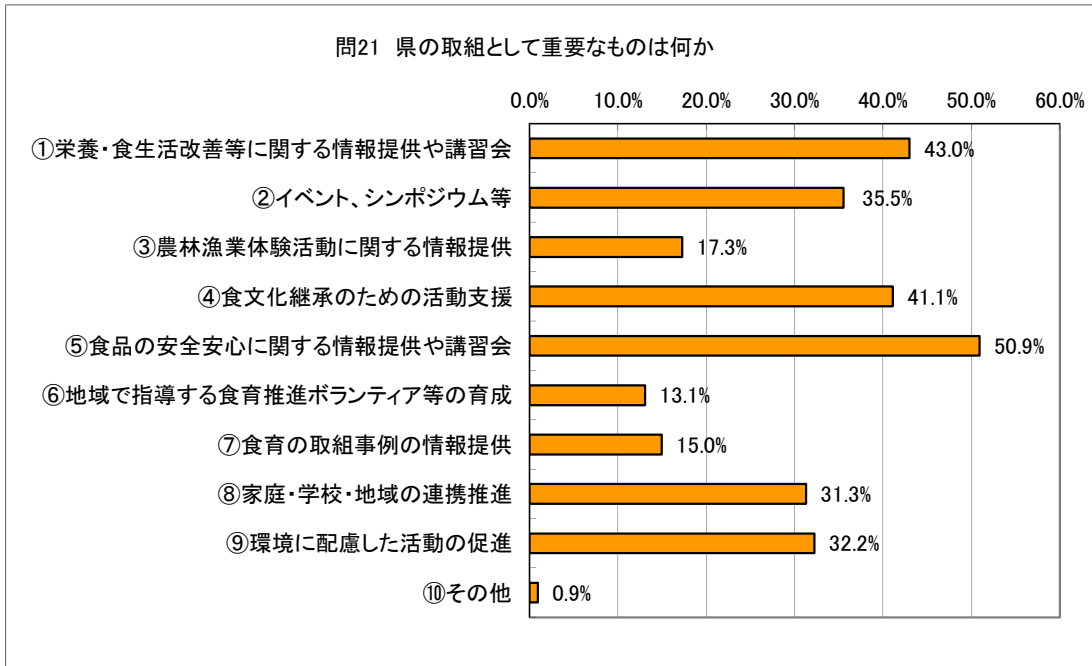
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：未使用食品活用のための講習会を自分で開催している、「3010運動」の取組、男性向け料理教室

居住市町村の食育の取組内容は、「③食生活改善の講習会（54.0%、前回56.1%）」が最も多く、次いで「②伝統料理教室（48.4%、前回57.6%）」、「⑦地産地消給食（46.8%、前回49.2%）」の順に多かった。

問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：県産品の安全性を科学的データで示す、県産品の提供を推進する、社会教育部門への指導

県の取組として重要なものは、「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(50.9%、前回42.9%)」が最も多く、次いで「①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(43.0%、前回46.5%)」、「④食文化継承のための活動支援(41.1%、前回59.0%)」の順に多かった。